

平成29年7月30日
今週のベストショット



青松園B 奈多フェニックス 対 三苦三球会戦

奈多フェニックス打線を抑えた吉留投手（左）と値千金の2ランHRを放った渡辺選手（右）

写真：三友クラブ 大坪 和則

雁ノ巣軟式7 暑い中、相手に与えたチャンスをものにしたのは・・・

ブルーマーリンズ（8敗）100000 1 横山（祥）●-横山（健）

新町パイレーツ（4勝5敗）00400X 4 吉田○-安田

連日の猛暑続きで、早朝にも拘わらず熱気が残る中で始まったブルーマーリンズ対パイレーツ戦。初回Bマーリンズは二番末松選手がエラーで出塁。一死二塁のチャンスに三番横山（健）選手が綺麗にライト前へ運び幸先よく先取点を奪う。一方パイレーツも初回、Bマーリンズ先発の横山（祥）投手から2つの四球を選び、一死二塁。流れを引き寄せたいパイレーツだが、後が続かずチャンスを逃す。パイレーツ続く二回も先頭の六番本堂選手がレフトへヒットを放つもセカンドでタッチアウト。続く七・八番バッターが連続四球を選ぶも、後続が凡打とチグハグな攻撃で得点を挙げる事が出来ない。このまま逃げ切りたいBマーリンズだが、三回裏制球の定まらないマーリンズ横山（祥）投手が3連続四球と一死満塁のチャンスを与えてしまう。我慢どころのBマーリンズだが、続くパイレーツ六番本堂選手の打球で守備のエラーも出てしまい、パイレーツが同点に追いつく。その後も押し出し四球で、この回ノーヒットで4点を献上し逆転を許してしまう。その後は両チームとも、四死球でランナーを出すもチャンスを作る事が出来ず、そのまま試合終了。この試合、両投手とも暑い中での投球だったので制球に苦しんでいたが、Bマーリンズの方が相手にチャンスを与え過ぎた結果になってしまった。

（記事・写真：三苦フレンズ 御手洗 文男）



パイレーツ先発の吉田投手。



ブルーマーリンズ先発横山（祥）投手。



先制のホームをギリギリで踏むマーリンズ末松選手。



二回裏、左邪飛をスライディングキャッチする児玉選手。



熱い中だったので三回が終わった所で三分の休憩。



吉田投手の攻略を模索する桑野選手。



最終回代打に向かうパイレーツ田中選手。
しかしこの直後時間切れで試合終了。

青松園B 僅かなチャンスに打線がつながった三球会が勝利！

奈多フェニックス（3勝4敗） 1 0 0 0 1 0 2 今林(勇)●—実延(新)

三苦三球会 （4勝4敗） 1 0 0 2 2 × 5 吉留○—藤澤

HR：西藤2（奈多フ） 渡辺(三球会) 2 BH：今林(勇)（奈多フ）

盗塁：上村、大津（三球会） 今林(英)（奈多フ）

同じ3勝同士の対決は、フェニックス先発今林(勇)投手、三球会吉留投手で始まった。初回先攻のフェニックスは、一番西藤選手が吉留投手の初球を叩き、左中間を破る先頭打者HRでいきなり1点を先制！その裏、三球会は先頭上村選手が内野安打で出塁するとエラーもあって三塁に進み、三番大津選手レフトへの犠牲フライを打ちすぐ同点に追いついた。その後、吉留投手と今林(勇)投手が頑張り0点に抑えるが四回裏、三球会は二死から七番塚(達)選手がファースト横を抜けるライト前ヒットを放つと八番渡辺選手が右中間を破る2ランHRを打ち、徳望の追加点を挙げる。何とか追いつきたいフェニックスは五回表、先頭打者九番太田選手が左中間にヒットを打ち、二塁まで進もうとするがここは好返球でタッチアウト！チャンスメイクが出来なかった。そして初回HRを放った西藤選手は吉留投手の球をガツンと叩き、打った瞬間HRと分かるレフトフェンスオーバーのこの日2本目となるHRを打ち1点を返す。続く二番高原選手、三番今林(勇)選手が連続ヒットで一死二三塁となり、フェニックス、同点に追いつくかと思われたが、ここは吉留投手が踏ん張り1点で抑えた。五回裏、三球会は疲れが見え始めた今林(勇)投手から一死後、三連続四球を選ぶ。そして五番半田選手がセンター前2点タイムリーヒットを打ち更に2点を追加した。六回表フェニックスは六番今林(英)選手がレフト前ヒットを打ち、エラーもあって二死一三塁とする。しかし後続が三振となり時間切れゲームセットとなった。三球会塚監督は四回裏の渡辺選手の2ランHRがポイントだったとのこと。三球会は4安打ながらもここぞという時にタイムリーで打線につながり素晴らしかった。また、それまでは投手戦になるかと思われたが一球で試合展開が変わるのを見て改めて一球の大切さを感じさせる試合だった。（記事：三友クラブ 駄原 孝一郎、写真：大坪 和則）



三苦三球会先発の吉留投手。



フェニックス先発の今林勇太投手。



一回表、先頭打者HRフェニックス西藤選手。



一回裏、三球会大津選手の犠牲フライで同点。



四回表、二塁打を放つフェニックス今林勇太選手。



四回裏、三球会堺達也選手が反撃のチャンスメイクヒット！



四回裏、2ランHRでホームイン！三球会渡辺選手。



五回表、二塁を落とせなかったフェニックス太田選手。



五回表、この日2本目のHRフェニックス西藤選手。



五回裏、追加の2点タイムリーヒット三球会半田選手。



六回表、何とかレフト前ヒットのフェニックス今林英二選手。



好投の三球会吉留投手と試合を決めるHR渡辺選手。

青松園A ホーネッツ川原投手要所を締めて見事な完封勝利

塩浜ジャガーズ（1勝8敗）00000 0 立石●、道喜ー竹尾

三苫ホーネッツ（7勝1敗）5370× 15 川原○ー広木

HR：今田（三苫ホ） 2BH：隈崎（三苫）内田（塩浜ジ）

盗塁：矢野（義）2、矢野（雅）、井手（涼）、塚（恭）（三苫ホ）

初回ジャガーズの攻撃は二死から三番橋村選手が左翼前へクリーンヒットを放ち先制のチャンスを作るも続く四番立石選手が倒れてしまい得点ならず。裏のホーネッツは先頭矢野（義）選手が四球で出塁し続く井手（Jr）選手もバントヒットで出塁し続く稲葉選手も安打で続く。ここから押し出しや塚（Jr）選手と川原選手の適時打でいきなり5点先制。二回表ジャガーズの攻撃は先頭の内田選手の中前打に続き竹尾選手も四球で出塁し、無死一二塁のチャンスを作るもその後を連続三振に打ち取られ無得点。その裏のホーネッツは再びチャンスを作り相手の適時失策などでさらに3点追加。三回裏ホーネッツは先頭の隈崎選手が出塁し、矢野（義）、井手（Jr）選手も続き得点を重ね、とどめは七番今田選手が左翼越えの3ラン本塁打を放つなどさらに7点追加した。四回裏からジャガーズは道喜投手をマウンドに送る。ランナーは1人許したものの自身のファインプレーなどで強打のホーネッツ打線は無得点に抑えるナイスピッチングを披露した。最終回となった五回表だったがあっさり二死となり最後はこの日2安打の三番橋村選手だったが、チーム8個目の三振に切られ試合終了となった。勝ったホーネッツは相変わらずの攻撃力と川原投手の安定感抜群の投球で終始試合を優位に進めていた。一方敗れたジャガーズは細かいミスで流れが相手に行ってしまう失点に繋がったのと、チャンスで得点を奪えなかったのが痛かった。

（記事：新町ウインズ 野中 一史、写真：早田 主大）



完封したホーネッツ川原投手。



先発したジャガーズ立石投手。



一回裏、2点タイムリーを放った塚恭祐選手。



スリーバントを試みるも失敗（矢野三塁手の好判断）



二回裏、盗塁を成功させた井手涼次朗選手。



流し打ったジャガーズ一番石内選手。



2ストライク後、外角の難しい球に手を出した立石選手。



この試合、4安打放ったホーネッツ井手涼次朗選手。



代打、俺！（ジャガーズ水流監督）



1イニングを無失点に抑えたジャガーズ道喜投手。

奈多グラウンド 初回に明暗が！

ソルトバイスターズ（7敗1分）	0000000	0	小山●—大門
奈多クラブ（8勝）	3000000	3	今林（瑠）○—安河内

HR：馬場口（奈多ク） 2BH：今林（瑠）、上野（奈多ク）

一回表、ソルトは先頭の一番八柄選手が中前安打で出塁すると二番中村（健）選手は凡退するも三番中村（耕）選手が左前安打を放ち一死二塁とする。ここまで7勝を挙げている好投手、奈多クラブ今林（瑠）投手を前に先取点の好機を迎える。しかし、この好機を生かせず続く四番酒井選手、五番大門選手ともに打ち取られてしま

う。一方奈多クラブは一回裏、一死一塁から三番今林（瑠）選手が放った安打と相手の失策で1点を先制。その後二死三塁となり五番馬場口選手が左中間を破る本塁打を放ち、2点を追加する。今林（瑠）投手は初回こそ得点圏に走者を進めたが二回以降は二塁すら踏ませない投球で被安打2、奪三振5、零封の快投で奈多クラブ無傷の8勝目を挙げた。両軍とも二回以降は締まった試合内容であり、初回での攻防が明暗を分けたか。

（記事：雁の巣ライナーズ 明瀬 旭、写真：宇野 元康）



奈多クラブ先発の今林瑠生投手。



一回表、ソルトベイスターズはいきなりチャンスだったが…。



ソルト先発の小山投手。



一回裏、2ランHRを放つ奈多クラブ五番馬場口選手。



投打のヒーロー！今林（瑠）投手（左）と馬場口選手（右）。

第15週編集後記

WSLの皆さん、コンニチハ！

第15週、7月30日は4試合が行われました。

雁レク7のブルーマーリンズ対和白新町パイレーツ戦は、折角先制したブルーマーリンズだったが、三回裏に四死球連発で無安打ながら4失点。そのまま両チーム無得点で1-4でパイレーツの勝利。Bマーリンズはこれでは勝てません。投手層の拡充を図る必要性が迫られます。

青松園Bの奈多フェニックス対三苦三球会戦は、フェニックス一番西藤選手の2HRを含む8安打を吉留投手に浴びせるが、得点は西藤選手の2点のみ。一方三球会は4安打ながら欲しいところで効果的な得点を挙げる。中でも1-1の均衡を破った渡辺選手の2ランと、二死満塁のピンチの後に半田選手のダメ押し2点タイムリーが効果的だった。

青松園Aの塩浜ジャガーズ対三苦ホーネッツ戦は、初回から一方的な展開。4安打で5得点のホーネッツは攻撃の手を緩めず、七番まだ選手の3ランなど12安打で15得点。投げては川原選手がジャガーズ打線を5安打に抑え0-15の完封勝ち。5盗塁に加えて積極的な盗塁も大量点に結びついた。

奈多グラウンドのソルトベイスターズ対奈多クラブ戦は、一回裏1点を先制した奈多クラブ、五番馬場口選手の2ランHRで3点を先制する。全勝の奈多クラブを初回の3失点に抑えたソルト小山選手だったが、打線の援護なく初回の2安打完封に抑えられ、0-3で奈多クラブの勝利。奈多クラブは無傷の8勝目。

8月7日から始まる全国高校野球選手権大会は、開会式直後に長崎の波佐見高校、二試合目に福岡のとうちく高校が登場します。

母校が活躍する方は、力の限り応援してください。

WSLも高校野球に負けず、一球一球を追いかけましょう！